

9. 姫路赤十字病院「チームマイクロ」

最善の結果を生み出す多職種による改善活動の推進と成果

～クリニカルマイクロシステムの実践～

☆○駒田 香苗（看護部 看護師）

キーワード：チーム医療 患者満足 職員満足

【目的・目標】 患者を取り巻く現場の最前線（マイクロシステム）で起きている問題に着目し、時には患者と多職種がチームを組んでPDCAサイクルを回しながら医療の質を改善する文化を醸成させる。【実施対策】 2011年より看護師長会でクリニカルマイクロシステムを導入し、ボトムアップ型の改善活動を推進している。現在は、業務改善運営委員会が、「クリニカルマイクロシステムで改善活動～TQM活動報告会」を推進し、多職種によるQCサークルが毎年実践報告会を行っている。

【効果】 改善のスタートは、「現場を知る」事であり、日頃困っている問題に着目し、それを可視化することである。業務プロセスを多職種で見直す事で、風通しの良い組織文化が醸成され、医療従事者は、専門職業人としてのやりがいにつながる。更に改善活動により、業務の効率性・安全性が向上し、経済性へも影響するため組織にも貢献している。

【この活動の優れている点】 この活動は、“患者のために質の良い医療が提供したい”という、医療人の基本となるものを実現させる事が出来るため、継続的に現場を改善しようとする文化が醸成されていく。多職種が改善活動を楽しみながら行い、その成果を共有する取り組みは、院長方針の「治療を受けたい病院・働き続けたい病院造り」につながっている。

10. 福岡赤十字病院「輸血療法委員会」

赤十字病院としての輸血療法に対する取り組み～適正使用と廃棄ゼロを目指して～

☆谷本 一樹（輸血細胞治療部 医師）

○金本 人美（輸血細胞治療部 臨床検査技師）

キーワード：輸血療法の適正使用 目標の数値化
コミュニケーション能力

【目的】 血液製剤は、善意の献血の元に成り立つ貴重な限りある資源である。しかし近年では、献血者数は減少傾向で血液製剤は慢性的な不足に陥っている。このような状況の中、製剤の適正使用、廃棄率を減少させる事は、医療機関としては勿論、赤十字として当然の責務である。輸血療法委員会では、3年以内に廃棄率を1%以下にするという目標を掲げ、各部門と連携し取り組みを行った。

【実施】 1) 医療安全推進室との連携を強化し、インシデント情報を共有。2) 輸血部は血液製剤の過剰在庫を見直し、コンピュータクロスマッチの導入を軸に、検査技師に時間管理の意識付けを徹底。3) 過剰な輸血オーダーには主治医に直接確認を行い調整。手術中の症例は、術場に在庫状況を知らせることにより、麻酔科医からの追加輸血もスムーズになり、緊急輸血にも対応。4) 製剤を多く取り扱う看護師には、マニュアル整備と講義を中心とした輸血教育を継続して行い、特に破損が多かったFFPは、輸血部にて解凍、出庫することで製剤破損はゼロになり、解凍時の温度管理も確実となった。

【効果】 これらの対策を実施し、3年目には廃棄率は1.0%を切り、28年度には0.1%と極めて低い数値まで達し指針に則った輸血療法が構築された。

【まとめ】 輸血療法に関わる各部門の問題点を共有、意思統一を図り、コミュニケーション能力で解決の糸口を掴み、特別なコストをかけず目標を達成出来た事は大きいと考える。